

資料より一部抜粋してご紹介します。

本調査は、「日本全国における自殺念慮と自殺未遂の実態を明らかにすることで、自殺対策の必要性について社会の機運を醸成し、自殺対策の推進に寄与すること」を目的として行われました。対象は調査委託先の株式会社 RJC リサーチが提携する「楽天リサーチ」および提携パネルに登録するモニターである全都道府県 20 歳以上の男女（20~50 代の各年代、60~64 歳、65 歳以上）、調査期間は 2016 年 8 月 2 日（火）～8 月 9 日（火）、調査方法はインターネット調査「あなた自身に関するアンケート」を用いました。

調査結果〈10 のファクト〉

1. 4 人に 1 人が「本気で自殺したいと考えたことがある」
2. 自殺未遂経験者は全国 53 万人超(推計)
3. 5 人に 1 人が身近な人を自殺で亡くしている
4. 若年層(20~39 歳)は最も自殺のリスクが高い世代
5. その他に自殺のリスクが高い人は、「身近な人を自殺で亡くした人」・「過去に虐待を受けた経験のある人」・「他者は頼れず人間は理解・共感できないと思っている人」・「死への恐怖が薄い・生を全うする意志が低い人」
6. 自殺のリスクを高める要因は、「家族等からの虐待」・「生活苦」・「家族の死亡」・「アルコール依存」・「負債(多重債務等)など」
7. 自殺のリスクを抑制する要因は、「自己有用感」・「社会的問題解決能力」・「共感力」
8. 半数以上が、「自殺のことで相談しない」
9. 住み続けたいという人が多い地域は自殺リスクが低い地域
10. 自殺未遂を思いとどまった理由

ここでは、1~5 までの調査結果についてもう少し詳しくご紹介したいと思います。

1. 4 人に 1 人が「本気で自殺したいと考えたことがある」

自殺念慮の有無では、「ある」が 10,282 人 (25.4%)、「ない」 30,131 人 (74.6%) でした。自殺念慮の時期は、「1 年以内」が 13.5%、「10 年以内」が 20.9%、「20 年以内」が「22.2%」、「30 年以内」が 10.2%、「30 年より前」が 10.2% でした。自殺念慮の有無を年代別でみると、20 代が最も多く 34.9%が自殺念慮を抱いていました。次が 30 代で 32.0%、40 代で 30.9%と年代が後になるほど徐々に減少します。男女差ではどの年代においても女性の方が男性よりも自殺念慮を抱いている人が多いという結果でした。自殺念慮を抱いた原因は、「家庭問題」・「健康問題」・「経済生活問題」・「勤務問題」・「男女問題」・「学校問題」のうち 65.2%の人が 2 つ以上の原因を持っており、複合的なものと結論づけられていました。

2. 自殺未遂経験者は全国 53 万人超(推計)

自殺未遂者の推計は、本調査から性別・年齢別自殺未遂率を算出し、その自殺率に最新の平成 27 年国勢調査の結果を掛け合わせて推計を行いました。結果、過去 1 年以内の自殺未遂経験者

は、推計 53 万 5,000 人（男性：26 万 4,000 人、女性：27 万 1,000 人）でした。年代別に見ると、20 代 15 万 1,000～23 万 4,000 人、30 代 12 万 8,000～20 万 4,000 人、40 代 7 万 2,000～13 万 2,000 人、50 代 2 万 1,000～5 万 7,000 人、60～64 歳 2,000～1 万 8,000 人、65 歳以上 4,000～4 万 1,000 人でした。自殺未遂者 1 人の未遂回数は、男性は「1 回だけ」が 28.6%、「2～3 回」が 34.4%、「4 回以上」が 37.1%、女性は「1 回だけ」が 20.6%、「2～3 回」が 30.4%、「4 回以上」が 49.0% でした。また、原因については 1 と同様 81.4%が 2 つ以上の原因で未遂に至っていたため、複合的なものと結論づけています。

3.5 人に 1 人が身近な人を自殺で亡くしている

ここでの自殺で亡くした「身近な人」とは、「同居家族・親族」・「同居していない家族・親族」・「友人」・「恋人」です。回答者のうち「同居家族・親族」を亡くされた方は 1.8%、「同居していない家族・親族」を亡くされた方は 9.5%、友人を亡くされた方は 10.1%、恋人を亡くされた方は 0.3%で、総数 21.7%となります。「身近な人を自殺で亡くした人」のうち、33.9%が自殺念慮を抱き、10.4%が自殺未遂を経験しています。自殺念慮を抱いている全体平均は 25.4%、自殺未遂の経験の全体平均は 7.0% ですので、「身近な人を自殺で亡くした人」の方が自殺念慮を抱きやすく、自殺未遂を行いやすいといえます。「身近な人」の中でも、特に「恋人を亡くした人」の自殺念慮が 59.4%、自殺未遂経験 38.6%と高くなっています。

4. 若年層(20～39 歳)は最も自殺のリスクが高い世代

全世代の 25.4%が自殺念慮を抱いていること対して、20～39 歳は 35.4%が自殺念慮を抱いている結果でした。また、1 年以内の自殺未遂歴については、全世代が 0.6%だったのに対して 20～39 歳の自殺未遂は 1.28% でした。1 年以内に自殺未遂を経験した 20～39 歳の就業状況では、1 位「会社役員」4.84%、2 位「学生で仕事をしている」4.08%、3 位「内職」2.7%、4 位「休職中」2.58%、5 位「自家営業の手伝い（家族従事者）」2.53%、6 位「無職で仕事をしたいと思っていない」2.25%、7 位「無職で求職中」2.58% でした。この時期に直面していたライフイベントとしては、「被虐待」・「貧困」・「看護・介護疲れ」・「ひきこもり」・「いじめ」・「精神疾患」・「進路の悩み」・「薬物依存」などが挙げられていました。男性特有のものでは「離婚」・「事業不振」・「失恋」・「倒産・失業」・「アルコール依存」、女性特有のものでは「家庭内暴力」・「家族の不和」・「子育ての悩み」・「精神疾患（鬱）」などが挙げられていました。

5. その他に自殺のリスクが高い人は、「身近な人を自殺で亡くした人」・「過去に虐待を受けた経験のある人」・「他者は頼れず人間は理解・共感できないと思っている人」・「死への恐怖が薄い・生を全うする意志が低い人」

ここでは自殺のハイリスクグループとして 8 つ挙げられていました。「他者に頼ることができず人間は理解・共感できないと思っている人」・「死に対する恐怖感が低い人」「生を全うする意志が弱い人」、「失業した人」・「女性」・「配偶者との死別・離別・別居」・「家族との同居」です。

今回の調査では、年齢による差が出ないように調整しているとのことですが、インターネットを利用した調査という点で標本の偏りや動機付け、回答方法に不安が残ります。ですが、希死念慮について調査された平成23年厚生労働省「自殺対策に関する意識調査」においても、「今までに本気で自殺したいと思ったことがあるか聞いたところ、「自殺したいと思ったことがある」と答えた者の割合は23.4%となっている。」とあります。こちらの調査においても2割以上の方に希死念慮があるとの結果でしたので、大きなズレはないものと思われます。また、この厚生労働省「自殺対策に関する意識調査」は平成28年10月から10月下旬まで調査を行っており、続報が期待されます。

参考文献

日本財団、2016、「自殺意識調査2016（速報）」記者会見資料
厚生労働省、2011、「自殺対策に関する意識調査」

【3】お知らせ

◇ 精神保健福祉センターでは、こころの電話相談を次の時間帯で行っています。

月曜から金曜日 9:00～21:00

土曜日祝日（12月29日～1月3日を除く） 10:00～16:00

Tel : 0570-064-556

※ご相談の電話が集中しますと、つながりづらい状態になりますがご了承ください。

◇ HP・携帯版HPをご覧ください

北海道地域自殺対策推進センターのHPを開設しています。最新の北海道の状況を掲載しており、より情報を見やすく、分かりやすくお伝えできるよう心がけています。

パソコンHP URL : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/jisatutaisaku.htm>

また、携帯電話で見ることができる携帯版HPも開設しています。警察庁および北海道警察から公表された統計資料をもとに、北海道における自殺の状況を掲載しています。こちらも併せてご覧ください。

携帯HP URL : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/i/joukyou.htm>

【4】編集後記

北海道ではすっかり寒くなり、秋らしく葉も色づいてきました。

筆者も日々、「寒いしストーブを付けようか、でも灯油代高いし・・・」と迷いながら生活しております。

自殺に関連した話題としまして、電通女性社員の自殺における労災認定が話題となっております。また、今年初めて厚生労働省より「平成28年版過労死等防止対策白書」が公表されました。興味のある方は是非ご一読下さい。

いつもご愛読ありがとうございます。

次号 Vol.89 は、2016年11月末に配信予定です。

お問い合わせ先

北海道立精神保健福祉センター
札幌市白石区本通 16 丁目北 6 番 34 号

Tel 011-864-7121

Fax 011-864-9546

URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/>

Mail hofuku.seishin1@pref.hokkaido.lg.jp